



## ⑤ エンドウを育てよう

# 種まき後は不織布で覆う

エンドウはマメ科に属するツル性の野菜で、地中海沿岸から西アジアが原産です。生育適温が12～18度で冷涼な気候を好み、20度を超えると生育が衰えます。温暖地では、晩秋に播種して耐寒性の強い幼苗で冬を越し、春から初夏にかけて収穫。連作に弱く酸性土壌ではうまく生育しないので、4、5年栽培していない場所を選びしっかりと石灰で酸度を矯正します。

### 1. 分類、品種

食べる部位により実エンドウなど三つに分類されます。実を食べる実エンドウでは「ウスイ」「南海緑」など、さやを食べるサヤエンドウでは「美笹」「ニムラ」など、さやも実も食べるスナップエンドウでは「スナック」「グルメ」などがあります。

### 2. 畑の準備

定植の2週間前に1平方メートル当たり苦土石灰150グラムを散布し、耕うんします。その1週間後に1平方メートル当たり堆肥2キログラム、化成肥料（成分15・15・15）50グラム、ヨウリン50グラムを散布し、耕うんします。生育期間が長いので鶏ふんや油かすなど有機質肥料を使用してもよいです。

### 3. 植え付け

畝幅150センチ（床幅80センチ、通路幅70センチ）、高さ5センチの畝を作ります。種まきは、10月下旬から11月に株間30センチ（キヌサヤは株間10センチ）で4粒ずつ播きます。マメ類は、鳥害が多いので、種まき後発芽するまで不織布で覆います。本葉が2、3枚になったら2本に間引きします。（9センチポットにまいて本葉2、3枚のころに定植しても良いです）

### 4. 支柱立て

ツルが伸び始めたら支柱を立てます。竹や木の枝を使っても良いでしょう。支柱の間にひもを通し、ひもにツルを巻いて誘引します。

### 5. 追肥

3月中下旬ごろに追肥用化成肥料を1平方メートル当たり20グラム散布し土寄せします。窒素をやり過ぎるとつるボケになるので、注意します。

### 6. 病害虫

ツルが茂るとうどんこ病が発生するので、ツルの整理をします。ヨトウムシやハモグリハエを見つけたら捕殺します。

### 7. 収穫

サヤエンドウは実が膨らみ始めたら、スナップエンドウは実が膨らんでから、実エンドウはさやの実が膨らんでさやに小じわができてから収穫します。



（鹿児島市都市農業センター）